

コンタクトレンズご使用前に必ずお読み下さい。

コンタクトレンズ取扱説明書

警告

<特に注意頂きたいこと>

1. レンズの使用期間を守ること

本レンズは、使用期間を超えることなく、定期的に新しいレンズと交換し、使用済みのものは確実に破棄してください。

使用期間は製品によって異なります。WEB サイトにてご確認ください。

2. 装用時間を正しく守ること

レンズの装用時間には個人差があります。眼科医に指示された装用時間を必ず守り、眠るときは必ずはずしてください。

3. 取扱方法を守り正しく使用すること

レンズやケア用品の取扱方法を誤ると眼障害につながります。レンズやケア用品(特にレンズケース)は正しい取扱方法を守り、常に清潔に保ってください。

4. 定期検査を必ず受けること

自覚症状がなく、調子よく装用していても目やレンズにキズがついたり、眼障害が進行したりしていることがあります。異常がなくても眼科医に指示された定期検査を必ず受けてください。

5. 少しでも異常を感じたら眼科医の検査を受けること

レンズをつける前とつけた後、目ヤニや充血がないかを毎回確認してください。また、レンズをつけた後には異物感等がないことを確認してください。少しでも異常を感じた場合は、すぐに眼科医の検査を受けてください。

<コンタクトレンズを使用する上でのリスク>

コンタクトレンズを適切に使用した場合でも、角膜内皮細胞の減少を早める可能性、角膜形状を変化させる可能性があります。また、レンズ装用により酸素供給の不足、機械的な刺激、乾燥等が生じ、眼障害発生の危険性が高くなる可能性があります。万が一異常があった際に早期に対処できるよう、眼科医の指示に従い、定期検査を必ず受けてください。

レンズを適切に使用したとしても、以下のような眼障害が発生する危険性があります。

眼障害例)点状表層角膜炎・角膜びらん・角膜浸潤・角膜潰瘍・角膜浮腫・角膜血管新生・アレルギー性角膜炎・細菌性角膜炎・結膜炎(巨大乳頭結膜炎含む)・結膜充血・虹彩炎・ものもらい

【禁忌・禁止】

コンタクトレンズを使用できない病気や環境があります。使用する前に、眼科医に以下の項目に該当しないことを必ず確認してください。

<医学的禁忌例>

●前眼部の急性及び亜急性炎症 ●眼感染症 ●ぶどう膜炎 ●角膜知覚低下 ●眼瞼異常 ●角膜上皮欠損 ●レンズ装用に影響を与える程度のアレルギー疾患 ●レンズ装用に問題となる程度のドライアイ及び涙器疾患 ●その他眼科医がレンズ装用に不適切と判断した疾患

<社会的禁忌例>

●眼科医の指示に従えない方 ●レンズを適切に使用できない方 ●定期検査を受けられない方 ●レンズ装用に必要な衛生管理を行えない方 ●極度に神経質でコンタクトレンズの装用に向かない方

<生活環境的禁忌例>

●常時、乾燥した生活環境にいる方
●粉じん、薬品等が目に入りやすい生活環境にいる方

<使用禁止>

●破損等の不具合レンズ[破損したレンズの装用により、眼障害を引き起こす恐れがあるため。]

●MRI検査時[金属性の色素が悪影響を及ぼす恐れがあるため。]

●他人とのレンズの貸し借り[感染症等を引き起こす恐れがあるため。]

【使用方法等】

<レンズを取り扱う前に>

レンズを傷つけないようにツメを短く切り、丸くなめらかにしてください。

レンズに触れる前に必ず石けんで手や指を十分に洗い、清潔にしてください。

<プリスターパックの開封>

1. 開封時に中のレンズがこぼれ落ちないようにプリスターパックをしっかりと持ってください。
2. アルミフタを上へ引き上げるように少しはがしてから、保存液が飛び散らないように残りをはがしてください。(※手や指の水分をよく拭き取り、机の上等、安定した所で行うと、開封しやすくなります。その際、アルミフタや容器で手や指を切らないように注意してください。)

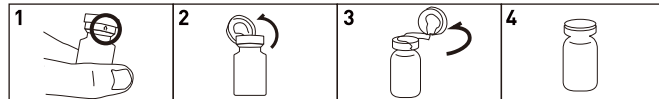
<バイアル瓶の開封>

1. バイアル瓶の底にレンズが1枚あること、破れや傷がないか、購入した色と間違いがないかを確認した後、バイアル瓶のアルミフタの矢印「↑」が上を向いていることを確認してください。(図1の“1”参照)
2. 矢印「↑」方向にプラスチックのフタを持ち上げ、プラスチックのフタと接合するアルミフタをめくります(図1の“2”参照)。この時、勢いあまってアルミフタを取ってしまわないように注意してください。
3. 図1の“2”の状態からアルミフタをどちらか片方向にひねり回しながらはずしていきます(図1の“3”参照)。(※この時、手や指を切らないように注意してください。)
4. アルミフタをそのまま一周回すと、簡単に取ることができます。後は中フタ(ゴムフタ)を軽くはがしてご装用ください(図1の“4”参照)。

<開封に失敗してしまった場合の対処方法>

1. 図1の“3”の段階でアルミフタの一部が残ってしまった場合、残ったアルミフタを無理にはずさず、ペンチ等の道具を用意してください。(手やツメで無理にはずすとケガをする恐れがあります。)
2. ペンチ等で片方向の切り口をつまみ、そのまま回しながら、気をつけてゆっくりとはずしてください。

【図1】



<レンズの取り出し方 (プリスターパック)>

レンズを傷つけないように注意して、容器のカープに沿うように指の腹でそっとレンズをすくい上げます。

<レンズの取り出し方 (バイアル瓶)>

1. レンズケースが清潔であることを確認し、バイアル瓶の中の保存液を半分ほど捨てます。(レンズと一緒に捨てないように注意してください。)
2. レンズケースにバイアル瓶の中のレンズと残りの保存液を流し込みます。(勢い良く流し込むとレンズがレンズケースから飛び出ることがあるので、注意してください。)
3. バイアル瓶の中にレンズが残ってしまった場合、新しい化学消毒液(MPSタイプ)(以後、消毒保存液)をバイアル瓶の中に入れ、上記の方法でレンズをレンズケースへ流し込んでください。(指等で無理にとるとレンズを傷つける場合があります。)

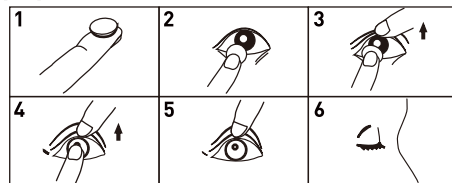
<レンズのつけ方>

1. レンズの縁を軽くつまんで上下に軽く振り、レンズ表面の水分をとります。利き手の人差し指にレンズをのせ、正常な形状であることを確認します(図2、及び図3の“1”参照)。
2. 同じ手の中指で、装用側の目の下まぶたをしっかりと引き下げます(図3の“2”参照)。
3. もう一方の手の中指で、上まぶたの縁をしっかりと引き上げます(図3の“3”参照)。
4. 両目でまっすぐ前を見たまま、レンズを黒目の上に静かにのせます。(このとき、黒目にレンズを押し付けしないでください。静かにのせないと目を傷つけるおそれがあります(図3の“4”参照)。)
5. レンズが黒目に正しくのっていることを確認し、ゆっくりと指を離します(図3の“5”参照)。
6. ゆっくりと何度かまばたきし、レンズが正しく装用されているか確認します(図3の“6”参照)。
7. もう一方の目も同じ方法でレンズを装用します。

【図2】



【図3】



<レンズのはずし方>

1. 石けんで手をよく洗い、さらによくすすいでから鏡を見てレンズの位置を確かめ、黒目が上方を向くように鏡を見ます(図4の“1”参照)。
2. 利き手の中指で下まぶたを軽く引き下げます。人差し指でレンズを黒目より少し下にずらし、レンズの下半分が白目の上にのるようにします(図4の“2”参照)。(レンズをずらす時に無理にはずすと角膜を傷つけるおそれがあります。レンズが動きにくい場合は、数回ゆっくりと大きくまばたきをするか、レンズ用の目薬を点眼して、十分に水分を含ませてからずらしてください。)
3. 親指と人差し指の腹でレンズの下方をつまんで取り出します(図4の“3”参照)。(このときツメで目を傷つけたり、レンズを破損したりしないように注意してください。)

【図4】



<装用サイクル>



<基本的な装着スケジュール>

本レンズは終日装着のレンズですので、眠るときには必ずレンズをはずしてください。

1. 初回装着時

初めて装着する場合は、下記の標準的な装着スケジュールを参考にして、少しずつ装着する時間をのばしてレンズに慣れさせてください。装着に慣れるまでの時間や、装着に慣れてからの装着可能時間には個人差があるため、必ず眼科医の指示に従ってください。

日数 \ 装着時間	1	2	3	4	5	6	7	8
1～3日目	3時間以内							
4～6日目	6時間以内							
7日目以降	8時間以内							

※最大1日8時間が標準装着時間となります。

2. 装着を中止した場合

レンズの装着を中止した後に、再び装着を開始する場合の装着スケジュールの目安は以下の通りです。

装着中止期間	装着スケジュール
1週間未満	最後の装着日の装着時間から2～6時間を差し引いた時間を目安に再開し、徐々に時間を延ばしてください。
1週間以上1ヶ月未満	眼科医の指示を受け、装着スケジュールに従い徐々に慣らしながら装着してください。
1ヶ月以上	眼科医の診察を受けて、その指示に従ってください。

<定期検査>

安全で快適にレンズを装着していても、3ヶ月ごとまたは眼科医の指示に従って定期検査を必ず受けてください。特に異常を感じなくても、目に傷がついていたり、目のトラブルが進行していたりする場合もあります。目の健康を保つために必ず眼科医の定期検査を受けて、眼科医の指示に従い装着してください。

<レンズケア>*

1. レンズをはずした際には、必ず下記のレンズケアを行ってください。（詳しいケア方法に関しては、ケア用品の添付文書に従ってください。）

1) [こすり洗い] レンズを手のひらにのせ、消毒保存液を数滴つけて、レンズの両面を各20回以上（20秒以上）軽くこすり洗いしてください。

2) [すすぎ洗い] 消毒保存液でレンズの両面をよくすすいでください。

3) [保存・消毒] レンズケースに消毒保存液を入れ、レンズを液中に完全に沈めてください。その後決められた時間、放置・消毒してください。

2. 化学消毒：ソフトコンタクトレンズ用化学消毒保存液（MP5タイプ）を使用してください。過酸化水素水やポビドンヨードによる消毒はしないでください。また、煮沸消毒はできません。

3. 使用後の消毒保存液を再使用しないでください。

4. 消毒保存液を他の容器に入れ替えないでください。

5. 開封後は常に消毒保存液の中でレンズを保存してください。

6. 再度装着する時はケア用品の添付文書に従い、再度消毒を行ってください。また、レンズに異常がないことを十分確認してから装着してください。

7. レンズを再度装着する時は、消毒保存液ですぐとより安全（清潔）に装着することができます。

8. レンズケースは定期的に新しいものと交換してください。

9. 使用後のレンズケースは中の消毒保存液を捨て、よく洗った後、自然乾燥させてから使用してください。

<使用方法に関連する使用上の注意>*

1. コンタクトレンズの装着前には、必ず添付文書をよく読み、記載の事項は必ず守ってください。

2. 添付文書は必要ときに読めるように大切に保管してください。

【使用上の注意】

<眼科医に相談する注意点>

1. レンズの装着に関しては、いかなる場合も眼科医の指示に従い装着時間や装着スケジュールを守り、異常を感じなくても定期的に眼科医の定期検査を受けてください。

2. 目薬を使用する時は、眼科医の指示に従い点眼してください。

3. 装着中に痛みや、くもる・かすむ・ぼやける等の見え方の異常を感じたら、直ちにレンズをはずして眼科医に相談してください。

4. 高齢の方や小児で、レンズの取り扱いが難しい場合は、無理な装着はせず眼科医に相談してください。

5. 病気、妊娠・出産等による体調の変化や、薬剤の服用、生活環境によってはレンズの装着に影響を及ぼす場合がありますので、眼科医の指示に従ってください。

6. 装着中に化学薬品等が目に入った場合、すぐにレンズをはずして水道水等で目を洗い流し、眼科医の診察を受けてください。

<ご使用の際に注意いただくこと>

1. 度数は目にあった正しいものを選んでください。度数が分からない場合は眼科医に相談してください。また、度数がなくなることがありますので、眼科医の定期検査を受けてください。

2. レンズを保存する際、プリスターパックまたはバイアル瓶内の保存液は使用せず消毒保存液を使用してください。

3. 目に違和感があるときや、体調が優れない場合は装着しないでください。

4. レンズ装着中は目をこすらないでください。（角膜に傷をつけたり、レンズが破損することがあります。）

5. 眠る前（仮眠や昼寝も含む）は必ずレンズをはずしてください。

6. 水泳や激しいスポーツをする場合は、レンズがはずれる事がありますので注意してください。

7. 目に空調や扇風機等の風を長時間当てないようにしてください。（レンズの乾燥の原因となります）

8. 化粧品、薬品、ちりやほこり等がレンズに付着しないように注意してください。

9. レンズの着色部分が光量を妨げることで、見えにくく感じられる場合や、視野に違和感をもつ場合があります。しかし、これらの症状はレンズ装着に慣れるに従って次第に軽減されます。症状が長引く場合や、気になる場合は眼科医に相談してください。

10. レンズが目には慣れるまでは車やオートバイ、自転車の運転、機械類の操作は行わないでください。運転中や操作中に異常を感じた場合は、安全を確認して速やかに運転、操作等を中止してください。

11. 本レンズは夜間の車やオートバイ、自転車の運転、機械類の操作には不向きですのでレンズをはずしてから行ってください。

12. レンズをなめたり、口の中には入れないでください。

13. レンズを水道水につけないでください。

14. レンズを複数枚重ねて装着しないでください。

15. 左右のレンズ度数が異なる場合、左右を間違えると正しい視力が得られませんので、ご注意ください。※装着の際、いつも決まった側のレンズから行う習慣をつけると間違いは少なくなります。

16. コンタクトレンズの紛失や装着中止時の対応として目にあったメガネを用意してください。

<レンズの取扱についての注意>

1. レンズに強い力を加えたり、強い摩擦を与えないでください。レンズの形状が崩れたり、レンズ表面を傷つけたり、破れたりするおそれがあります。

2. レンズや消毒保存液を凍らせないでください。凍ってしまったレンズは解凍しても元には戻らないので、絶対に装着しないでください。

3. レンズに異物の付着・傷・破れ・凹凸・変形・変色が見られる場合は装着を中止してください。

4. レンズを取り扱うときはレンズが破損する場合がありますので、ツメを立てたり、ねじったり、折り曲げたりしないように気をつけてください。

5. レンズは、乾燥してしまおうと装着できなくなりますので、常に消毒保存液で保存してください。

6. レンズケースに保存するときはフタにレンズをはさまないように注意してください。また、消毒保存液が漏れないようにしっかりとフタをしめてください。

7. 破損しているレンズや、違和感のあるレンズは直ちに装着を中止し、症状が続く場合には眼科医の診察を受けてください。

8. 高齢者や小児等、自分で装着脱やレンズケア等が困難な場合は、家族や保護者等の指導監督のもとで装着してください。

症状	考えられる原因	対処方法
痛み・充血	レンズを裏返しに装着	レンズをはずして裏表を確認し、消毒保存液ですすいだから再度装着する。
	レンズの汚れ	レンズをはずして消毒保存液でこすり洗いをする。落ちない場合は新しいレンズに交換する。
	ゴミ、まつ毛、化粧品の付着	
	レンズの乾燥	眼科医の指示する目薬を点眼する。
	レンズのキズや破損	新しいレンズに交換する。
	睡眠不足や疲労、かぜ等の体調不良	レンズをはずして様子を見る。レンズの装着を控える。
	長時間のレンズ装着	
異物感	アレルギー症状	眼科医に相談する。
	レンズを裏返しに装着	レンズをはずして裏表を確認し、消毒保存液ですすいだから再度装着する。
	レンズの汚れ	レンズをはずして消毒保存液でこすり洗いをする。落ちない場合は新しいレンズに取り替える。
	レンズのキズや破損	新しいレンズに交換する。
かゆみ	眼疾患	装着を中止して眼科医に相談する。
	ドライアイ	
	冷暖房等による空気の乾燥	レンズをはずして様子を見る。または、眼科医の指示による目薬を点眼する。
乾燥感	かぜ薬等の服用	
	長時間にわたる画面の注視	
	長時間の装着、近方視による目の疲れ	装着時間を短縮する。
レンズを装着中に目がかすむ、ぼやける等	レンズの汚れ	レンズをはずして消毒保存液でこすり洗いをする。落ちない場合は新しいレンズに取り替える。
	レンズの乾燥	眼科医の指示する目薬を点眼する。
	長時間の装着、近方視による目の疲れ	
	レンズを左右逆に装着（度ありの場合）	レンズの左右を確認する。
レンズがずれる、はずれる	フィッティング不良	眼科医に相談する
	レンズを裏返しに装着	レンズをはずして裏表を確認し、消毒保存液ですすいだから再度装着する。
	レンズのキズや破損	新しいレンズに交換する。
	レンズの汚れ	レンズをはずして消毒保存液でこすり洗いをする。
目ヤニが多く出る	眼障害の可能性	装着を中止して眼科医に相談する。

症状の改善がみられない場合や、その他の症状がみられた場合は、すぐにレンズをはずし、眼科医に相談してください。

目に異常がある間は、レンズを装着しないでください。

【保管方法と使用期間について】

<保管方法>

・直射日光を避け、室温で保管してください。 ・小児の手の届かないところに保管してください。

<使用期間>

・WEB サイトの商品ページに記載されています。

<使用期限>

・バイアル瓶側面、プリスターパック（アルミフタ上面）に表記された「EXP」は開封期限です。この期限までに商品を開封し使用を開始してください。（例）EXP 2030/02 2030年2月末日までに開封し使用期間を守ってご使用ください。開封期限を過ぎたものは使用しないでください。

【保守・点検に係る事項】

2週間以上レンズを装着しなかった場合、涙に含まれるタンパク質や脂肪分がレンズに付着し、レンズの曇り、装着感の悪化、目の炎症等を招くおそれがあります。十分に洗浄してから装着してください。

【お問い合わせ先】

<症状に関するお問い合わせ>

コンタクトレンズの装着にともなう目の症状等については、処方/検査を受けた眼科医に相談してください。

<製品に関するお問い合わせ>

WEEKENDSHOP お客様サポートセンター
MAIL：toiawase@weekendshop.net
（平日10:00～19:00）

<https://www.weekendshop.net>

（パソコン、スマートフォンでご利用いただけます。）

<包装に記載されているマークについて>

マーク	解説
	添付文書をお読みください。
EXP 	使用期限
LOT	製造番号
DIA	直径
BC	ベースカーブ
P	頂点屈折力
	高圧蒸気滅菌済